

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」検討・準備グループ（第 6 回）
新テスト実施企画委員会（第 3 回）
議事概要

日時：平成 28 年 12 月 16 日（金）15：00－17：00

場所：文部科学省 3F1 特別会議室

出席委員：岡本主査、荒瀬委員、沖委員、川上委員、東島委員、宮本委員、
乾委員、木村委員、島田委員、田中委員、林委員、福永委員、
前川委員、吉田研作英語四技能実施企画部会長

【資料説明】

- 橋田室長より参考資料 1～2 に基づき記述式の実施方法・時期のイメージ、
記述式問題出題に関する国立大学協会としての考え方について説明
- 伯井理事より資料 1、机上配付資料（問題イメージ例と解答類型案）に基づ
きモニター調査等について説明

【発言概要】（参考）

- ・国語・数学について、モニター調査した。
- ・国語は従来にはない素材を選定した（契約書、統計資料等）。
- ・15 字でも正答率が低いものがあった一方、80～120 字でも正答率が高
いものがあった。
- ・古文・漢文は知識技能を問うものがあり、無回答者がいるが、220
字の現代文は、1.5%の無回答率。
- ・正答条件が厳しく、正答でも良いものが誤答とされた例が多数見受
けられた。
- ・採点基準を業者とすり合わせる時間がなく、作問者と採点者の遮断
があった。
- ・数学の無回答率は国語より高かった。
- ・数学は短答式で数式を記入させるものが多かったが、解答のプロセ
スを記入させる問題もあった。
- ・自己採点との不一致率は今後分析する。
- ・採点に必要な時間は、来年のプレテストで見極める。

【自由討議】（1）モニター調査等について

川上委員：パターン 1 とパターン 2 は、パターン 2 + 記述式の長いものが加わ

るのか。

橋田室長：参考資料 2-2 をご覧いただきたい。パターン 2 については、この方向性で検証を進めていく。パターン 1 の取り扱いは、当初想定していたのは、問題作成・出題はセンターで行い、採点を大学で行うものだった。国立大学協会側から、こういった形でパターン 1・パターン 2 を出題すると、受験生が混乱するという懸念が示された。一方で、パターン 1' の場合、参考資料 2-3 には、国立大学の試験日は 25、26 日に固まっているが、形式上は国立の場合は日程・時間をそろえるのか、あるいはバラバラの時間でも対応できるように複数問用意するのかが論点になる。また、公立・私立の試験日程の関係で、パターン 1' になった場合、公私立含めた提供システムが組めるのか。今の時点では、パターン 1・パターン 1' どちらの方向とは決めておらず、フィージビリティー検証も踏まえながら、整理をしつつ、団体との調整もしていきたい。

川上委員：国立の場合は、ある程度日にちを揃えられると思うが、公立は中期日程もあり、試験実施日がバラバラでパターン 1' をやるのはハードルが高い。

モニター調査の結果を見ると、国語はマーク式を記述式にすると解答率が下がっている。問題としてはどう見れば良いのか。今までのマークでは解答できていたが、記述式では解答できなくなると、問題の難易度は下げるのか。

伯井理事：従来パターンのマーク問題と比較していないのでわからない。先生に補足してほしい。おそらく、従来パターンのマーク式の問題を記述させたとしても、文章を考察する力・書く力が加わるので、おそらく正答率はより低くなるだろうと思う。

島田委員：従来のセンター試験のマーク式問題は、全体で平均点が点ぐらいになるようにデザインされていると思う。1問1問について、すべての問いで%の正答率を目指してはいないだろう。記述式が混ざった場合も、全ての問いで%を目指すのではなく、総合的に考えていくと思う。なので、記述式の問題を特に易しくすることではないと思う。

川上委員：公立は単科大学も多く、作問ができない大学もある。国語はパターン 1 を個別入試に置き換えられる分量となると、マンパワーが足りない大学には有効。ただ、その場合にはレベルの問題もあり、公立大学の受験生にふさわしい難易度になるか。質と分量の問題になる。将来的に個別試験に代わる形で利用することができるのか。

岡本主査：そういう方向で何が必要かということ積み重ねていくのだと思う。

川上委員：将来的にはそういう使い方もありえるのか。

岡本主査：ありえると思う。

山本理事長：我々が答える話ではないかも知れないが、国大協の報告に、センターに作題してもらおうということが書いてあった。提案通りできるように努力するつもりだが、日程の問題などがある。国立大学は25、26日なので、一つにまとめてもらうか、複数の問題を提供するということが考えられるが、公立大学はさらに日程がバラバラであり、そこに耐えるような多くの種類の問題を出題するというのは、検討はするが、直ちにできるとは言えない。そういった意味では、記述の問題を個別の試験に入れるという方法も、お考えいただきたいと思う。

荒瀬委員：国大協は、高校生が混乱することを避けるため、パターン1とパターン2を同時に同一冊子で実施することを懸念しているが、そこまで心配する必要はあるか。その心配までして問題数を増やす必要はあるのか。

宮本委員：私の感覚では、そんなに心配することはないと思う。事前にある程度アナウンスをしっかりとすれば、それほど混乱しないと思う。

荒瀬委員：一つ、懸念があるとすれば、共通テストの結果で出願大学を変更する可能性がある。パターン1・パターン2を受けるか受けないかで、出願大学を固定することになるかと思う。ただ、これは「ためにする議論」。指導上は心配ない。

東島委員：実務を経験した立場で言うと、センターの科目が大きく変わった時、すごく混乱した（地歴公民冊子の配布ミス）。50万人に指示を出すのは至難の業。教員にも必ずしも指示が行き渡らないと思う。たった1行の取扱いでも、あいまいな内容だと解釈は無限となる。50万人いたら一定数混乱する。指示をできるだけ明確にして、解答手順などは誤解の無いようにしてほしい。

宮本委員：事前に高校に受験上の注意をもっと伝えてほしい。どの高校でも、センター受験生には事前に説明をしている。そこできちんと説明すればそれほど混乱しないと思う。当日、試験会場での指示は、子供たちも緊張しているので、難しいものがあるかもしれないが、事前のアナウンスの方法を工夫するだけでも違うと思う。

岡本主査：実施のほうは検討して直さなくてはいけないと思うが、せっかく問題も手元に配布されているので、それについても議論しましょう。

山本理事長：パターン1とパターン2の混在の話だが、事前周知は徹底的にする。本番1年前にはプレテストを行い、高校現場に混乱を生じさせたく

ない。

そしてもう一つ、解答が返ってきた後は、パターン 2 は採点するが、パターン 1 は志願大学を書いてない子もいる。採点は志願大学で行う。志願大学がわからないと送付できない。そうすると、採点期間が各大学でまた短くなる。そこをうまく切り取って間違いなくそこに発送するというハンドリングはなかなか困難と考えている。最善の方法は考えるが、オペレーションの問題もあることを考えていただきたい。

沖 委員：数学の記述の解答用紙の件で一点確認。F1 の問題の（2）で解答のプロセスを書かせることになっているが、回答欄を見ると「採点の対象とする」となっているので、採点はされたと思うのだが、モニター調査結果を見ると、この問題を見ると、正答が 21.9% で、条件 1 を満たすものが 0.01%。書かれたものを見なかったのか、合致してないのか。どのように読んだらいいのか。全般的に数学は国語より数学の方が、「正答の条件を一部満たすもの」が低いのはなぜか。

澤田課長：解答用紙において、「採点の対象とする」と記載したのは、このように記載しないと、解答の過程を書かないモニター生がいることが想定されるため、あえて書いている。ただし、今回の数学の議論を踏まえると、センター採点において、数学の解答の過程までセンターで採点するのはなかなか現実的ではないので、こういったデータを大学に渡して採点することができるかということを見るために、今回の条件を設定した。したがって、今回の民間業者の採点は最終的な回答のみ採点している。一方で、条件の一部を満たすものは国語と同様に、最終的な解答の中で表記の一部が違うものをこの類型に整理している。数学は正解・不正解に二分されるものが多いため、条件の一部を満たすものが少ない。

林 委員：今回の中教審答申で特に言われていたのは、国語について記述が 4 割しかないということが言われていて、前回も私は数学も入れれば 100 になるのではないかと、といったと思う。中教審答申で、「国語の記述を」と言われていたのに、今回ここに数学が出てきたのはどういった理由か。今後、数学も記述をやると理解していいのか。

橋田室長：中教審答申では、対象教科科目は明確になっていない。高大接続システム改革会議「最終報告」において、国語・数学を検討することになっている。

林 委員：どちらを重きにするかということになると思うが、まずは国語をや

っていただいたほうが中教審としてはいいと思う。単科大学で工業系は記述を出していないといわれて肩身が狭い。国語についてまず議論すればいいと思う。

また、パターン1・パターン2が混乱するかはわからないが、複雑なものとならないよう、教育への波及効果があるのであれば、記述式の導入当初はシンプルに国語のパターン2のみで良いのではないか。

福永委員：パターン2は、基本的に皆でやることになる。パターン1を個別試験に課すことを考える案が国大協の今回のご意見だが、時期的な問題もある。国立で出題したら私立はパターン1が使えなくなる。複数の問題を用意するのは厳しいと思うので、パターン1は国立大学用の個別試験に用意するのか。パターン1とパターン2を一緒に実施して、国公私もパターン1、パターン2のどちらか、あるいは両方を使えるようになるかが将来的な課題になると思う。

岡本主査：パターン1´は、センターで問題を作る。個別入試で使うのは、国公立は少なくとも使える。もちろん、自分の大学で出すところもあって良い。この議論は、実は何十年も前から国大協であった。ある日突然出てきたのではない。実施上で、中・後期日程どうするかという問題はもちろん残る。

沖委員：私大の中で、全体で詳細に検討していないので、参考として聞いてほしい。

私大連の教育研究委員会の中では、パターン1はありえない。困難と思っている。新テストの中に若干の記述が入って、ある程度の段階で評価されてくるのであれば、我々としては、全く問題はない。私立大学は、センター試験の使い方が極端に多様化している。普通に使っているところでも、合否判定は3回くらい山があるので、どこかでパターン1´を使ったらそれ以降の大学はもう使えなくなる。そう考えると、パターン1やパターン1´はご検討いただかないといけない。各大学が個別試験をどうするかが置き去りになっている。表現力など高度なものは、個別試験が原則。その中で、もし、たくさん問題が作られてプールされていて、日程を統一して、参加したいところが参加する、という方式であれば、私大も何大学か参加するかもしれない。パターン2が私立大学にとっては一番現実的かと思う。

岡本主査：50万人いるセンター試験は大変だと思う。何年か前のセンターの社会の混乱（地歴公民冊子の配布ミス）があったが、説明不足だけ

でなく、いろいろな要因が重なっていた。携帯を使っただけのカンニングの事件があり、センターでも対応を深刻に検討していた。あれ以来、混乱は起きていない。きっちり詰めれば、そんなに混乱しないのではないか。

前川委員：段階別表示は、何段階になる予定なのか。

伯井理事：検討中。例えば、国語の A1 の解答例、解答要件に「①字数を満たしているもの」などの項目がある。おそらくこれだと不正解も入れると、4 段階表示になる。そんな形で分析する。問いによって違う。

前川委員：段階表示なので、難易度を毎年同じになるようにコントロールをした上で、なるべく細かく表示して、各大学で使い方を決めさせれば良い。

正答を決めてしまうと、その正答が去年と同じ難しさなのかがコントロールが難しい。正答を決めて採点するよりは、採点基準を基にした分布を示し、その情報を基に各大学が判定したり、すべての受験者を採点してから基準を決める方法もあると思う。今の「正当」「誤答」「それ以外」の三段階では、難易度のコントロールは厳しいと思う。

角田課長：林先生から教科の話があったが、中教審はどの教科かは決めていない。高大接続システム改革会議で、当面国語・数学を優先することとなっている。ほかの教科も条件が整えば検討したい。

沖先生から、個別試験の議論について置き去りにされているとのこと意見があったが、国大協の議論を見ても、基本は各大学の二次試験で出題することとなっていて、国大協は意識している。逆に私大は記述式をどのように推進するかということのをこれから議論するのか。

沖委員：現時点ではまだ何とも言えない。問題については、各教育研究委員会の先生方、比較的大きな私立大学の代表が集まっていることもあり、記述式を出しているところも多く、それほど危機感はない様だ。私立大学は数百あり、そもそも出題ができるかということや、複数回の試験がある。記述式を入れるのは、優先順位として上がってこない私立大学もあると思う。個別試験で見なくても、他の出してもらった資料で測れていれば、そこを有効に活用する可能性もある。それ自体は私立大学の中で一枚岩にならないと思う。前から申し上げているが、多様性をどれだけ担保していただけるというのが、相当大きなポイントになると思う。

川上委員：公立のほうでは、新テストはある程度決まれば、それほど負担では

ない。やはり、個別試験をどうやるのかという方を相当気にしている。例えば、調査書・面接・さらに試験となると、そこが心配。シミュレーションを始めているが、現実的には、限られた期間でそれをすべてこなすのは無理。

岡本主査：一言だけ言わせてもらおうと、数学を後回しにしようと林先生は言うが、数学は思考力を見るときに、小問形式で式を次々書かせている。それをトレースしていだけで、かなり思考力は測れる。それで段階判定がかなりできると思う。

林 委員：数学を後回しにしたいというつもりではなく、数学は多くの理系で課しているし、段階的に我々は二次試験で見ているので、そういう意味で、まずは国語から広げるのがいい。部分点の与え方は国語と数学でだいぶ違う。私は採点するとき、基本的に数値があっているかではなく、どういう過程をたどったのかということが重要。数値があつていようがいまいが気にしない教員もいる。部分点の与え方もポリシーが入ってくるので、センターがまとめて採点するとき、センターが細かく採点しても、大学によっては使いにくいかもしれない。数学はそういう問題もあると思う。

伯井理事：ワーキンググループの議論の中で、国語は解答条件の適合性を見る中で、段階別表示をやりやすい。数学は短答式なので、基本的には○か×の世界なので、段階別表示の意義についても、2月のモニターで見極めたいと思う。

○吉田部会長より英語の資格・検定試験の活用について、英語実施企画部会の議論内容等を説明

【発言概要】(参考)

英語4技能実施企画部会における検討状況報告。

- ①学習指導要領改訂では、4技能に重きを置いているので入試にも反映させる必要がある。
- ②民間の資格・検定試験は評価の仕方がテストによって違うためバンド表示しかできない。ただ、バンド表示の場合は、足切りや出願要件で使うのは良いが、最終合否の判定には使えないという課題もある。
- ③民間の資格・検定試験の結果をセンターで一括管理をする方法には、メリット・デメリットがそれぞれあるので、詰めている段階。

○橋田室長より資料2に基づき、英語の資格・検定試験の活用について説明

【自由討議】(2) 英語の資格・検定試験の活用について

福永委員：資料について質問。実施場所がどれくらいとれるかが気になる。別紙 5、6 が私の資料には入っていない。

橋田室長：12～13 頁についている。

福永委員：ありました。ありがとうございます。

田中委員：英語の場合だと、資格・検定という、これまでのセンター試験と性格が違うものが入ってくる。中学生でもこの試験は受けることができる。そうすると、子供たちがある一定の得点を取った時に、あるスパンによって例えば、中学 2 年でとった資格が、大学入試まで有効と考えるかどうか。これが入ってくるときに、私は非常に画期的なことだと思うが、センターがこれまで通りの選抜試験としての性格を維持するのか、診断テストに変わるかで対応が変わる。

私立大学の観点でいうと、もともと私立大学はアラカルトで科目を使っている。そうすると、高校 1 年生とか 2 年生でセンター試験を受けても良いと。科目によっては、例えば、数学を取ったら、ある一定の点数でもって、採点基準を網羅するという、引き算テスト型の考えに立てば、その試験に関しては、一定の点数を取っているので、その高校 3 年時の時に試験を受けなくても良い。ようは、高校 3 年卒業するまでに一定の点数のところまで到達していれば良いという話と、ほかの科目の話になるが、今の英語の議論はどこかで重なるものですから、そういった意味でドラスティックな性格変容も含んだ形で今回の問題はお考えになられたほうが良い。

記述式を入れれば、大学には、おそらくほとんど変化はない。だが、高校の中では、授業の指導方針に関しては、「書くこと」に真剣になると思う。影響を及ぼすものと思う。

資格・検定試験の取り扱いはどうのようにするのか。

橋田室長：現行の民間の検定試験との役割分担は整理が必要になると思う。今回の認定試験の取り扱いは、制限がなくなると、中学から大学受験が始まることになる。高校 1 年生、2 年生から対策に追われることになる。テストの枠組みでは、できるだけ高校 3 年生とか、一定の期間の制限を課すべきだと思う。既存の試験のスコアの取り扱いは、個別で活用してもらうなどの判断があると思う。そのところは整理したい。

田中委員：資格試験でとったデータを、センターで管理すると、ワンクッション別組織に移動する。普通に考えると、新たなコストが発生して、

そのデータを引き出す時には、もともとの団体から直接もらうことに加え、センターからもらうという別のコストが発生するというのは一般的な考えと思うが、そういったことも十分に考えたうえでの構想なのか。

橋田室長：検定料の負担と費用負担を合わせて、受検生・大学・センター・資格検定機関とのコスト負担の在り方は整理したいと思う。

田中委員：いい試みと思うが、詰めなくてはいけないところはかなりたくさん残っている。

川上委員：資料 2 の 2 2 頁にある、当初案では、案 2 の、センター 2 技能＋資格・検定試験 2 技能を課す方向で進んでいたと思うが、今回は認定試験ありきで進んでいる。今後もこれは残るのか。

橋田室長：今の整理の中では、4 技能評価の 2 技能部分の切り出しではなく、一体的に段階別表示できる民間の資格・検定試験を活用する、それにプラスして、センター試験の 2 技能を課すということで整理が進んでいる。2 技能切り出しも議論をしていたが、こういった形での切り出しができるのかといったことがあったので、今回の形で整理させてもらった。

川上委員：初めの話では、案 2 が有力視されていて、その情報が世の中に出回っていた。今回、初めて認定試験が前面に押し出されてきた。

4 技能をある程度課していかないといけない。高校でそういう教育がなされるわけなので、大学としても、それを測らないといけない。そうすると、もし個別試験で、認定試験を使わないとなると、センターの 2 技能を使って、残りの 2 技能を大学で測ることはほぼ不可能。そういう意味では、選択はなくて、認定試験を必ず入れろということになると思う。

橋田室長：もともと認定試験を活用するのは、案 2 でも想定していた。認定試験の活用の在り方については、共通テスト、個別入試全体を通して 4 技能評価を推進する中で、この認定型をできるだけ使うような形で、団体とも相談しながら整理していきたい。

川上委員：公立で残りの 2 技能を課するのはほぼ不可能。

角田課長：資料 2 の 2 5 頁で、夏の段階では資格検定試験を活用するという説明をさせていただいている。その前提自体は変わっていない。3 頁の中段に文書で書いている。橋田室長が言ったのは、夏の段階では、センター 2 技能＋民間から残りの 2 技能を切り出す案しかなかったが、英語 4 技能実施企画部会で議論する中で、4 技能のうち 2 技能を切り出すのは適当なのかというご意見がでた。なので、書いてい

ない意見、センターの2技能+民間の4技能ということでお示しました。

前提の中で、各大学の中で活用することについては、我々としては4技能評価を推進する立場なので、センター試験だけでなく、是非とも資格・検定試験を活用していただきたいと考えているが、義務付けにするのかということ、大学の中で使うことは基本的に判断いただくこと。義務付けにするという形にはならない。どういう形で進めるかは、各委員会のご議論を踏まえ決めていきたい。

川上委員：2技能のみ切り出すのは難しいというのは理解している。今までの説明と違ってきているので、新たな合意形成が必要。

吉田部会長：補足だが、議論した中身だけ簡単に話すと、4技能テストの場合は、標準化されたテストであり、複数のテストの中から1つとなると、点数表示ができない。バンド表示しかできない。センター試験が点数表示で出てくるので、それを足すということは不可能。2技能だけとってきて足すのは無理だった。理屈が成り立たないので、4技能テストとしてできているものを、そのまま1つの基準として考え、そして個別の大学で、1点差で合格不合格が決まる場合は、センター試験で作る個別のテストで、ロースコアで判断していただくということが良いのではないか。もちろん、センターで作っている方を使わず、自分で作ったものをそのまま使うのでも構わないかもしれない。考え方としては、そういう考え方で今の結論に至っている。

福永委員：12頁を見ると、全国で行っている試験はそんなにはない。英検、GTEC、TOEICだけ。他は全国では行われていないので、共通テストで行うのは不平が出ると思う。長崎では、十何年前に県から「離島の生徒が不利なので、離島にきて試験をしろ」という意見が出たため離島4会場を設置した。沖縄も鹿児島も東京都も離島会場はあるはず。機会均等や公平性を重視してきた試験であるということを入り込んで議論してほしい。

宮本委員：4技能の方向性は理解できるが、今日の説明内容は、今までの理解とは英語の使い方が違う。丁寧な説明が必要となる。

大きな課題は、英語はどのような形で実際の大学入試に使われるかということ。英語だけが2回試験がある。つまり、資格・検定試験と、センター試験がある。他の科目は、新テストだけでやることになる。今は全部同じ条件でやっていて、トータルのスコアで判断をするわけだが、英語については今までと違う。そのところで、入試でどういう風に使われるかが非常にわかりにくい。そのところを整理

してもらわないと、どういう指導をしていいか、難しいと思う。理解が難しい。

また、福永先生の話にもあったが、地域によって全く条件が違う。民間の試験といっても、東京は全ての資格・検定試験を受けることができるが、地域によって一部のものしか使えないという条件が、今の段階だとある。それが本当に公平かという点、公平とは言えない面がある。民間活用について、地方の方々の心配というのは、費用に加え、日本中で同じように試験を受けられるわけではないことを、十分に考える必要がある。

荒瀬委員：宮本先生が言ったことが、高等学校から懸念して出てくると思う。ここが、今回の改革の大きなポイントで、乗り越えるかどうかという判断をしなければならない。乗り越えるのであれば、今回の話は手段の一つであると思うし、将来はこの形一本でいくのか。その将来がいつになるかは見えないが、その判断をどうするのかということを考えながら、今回の議論を聞いていた。

以 上